

沖繩平和賞支援募金趣意書

私たち沖縄県民は、悲惨な戦争体験等を通して平和の尊さを肌身で感じており、何よりも恒久平和を強く求めています。

沖縄の「平和への思い」を世界中に発信し、国際平和の構築に貢献したいという願いを込めて、私たちは「沖縄平和賞」を創設いたしました。平和は、国際関係の中で成り立っており、アジア太平洋地域の平和が沖縄と日本の平和に密接に関係し、沖縄県民が恒久平和の創造に努めていくことは大切なことだと考えます。

「沖縄平和賞」は、歴史的に沖縄と関わりが深いアジア太平洋地域の平和のために活動している国内外の個人または団体を顕彰し、その活動を支援する賞です。

これまで8団体が受賞しており、賞金の一千万円はその後の平和のための活動資金として活用されています。

第1回「中村哲を支援するペシャワール会」はアフガニスタンでの「オキナワピースクリニック」の建設等に、第2回「特定非営利活動法人アムダ」はスマトラ沖地震の緊急支援等の平和活動等に、第3回「沖縄・ラオス国口唇口蓋裂患者支援センター」はラオス国での口唇口蓋裂患者のための手術施設の建設やラオス国から沖縄への留学支援等に、第4回「特定非営利活動法人難民を助ける会」はアジア地域での障害者自立支援事業や世界的な地雷被害者のネットワークの構築に、第5回「特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会」は東日本大震災復興支援活動等に、第6回「特定非営利活動法人シャプラニール＝市民による海外協力の会」はバングラデシュ及びネパールの防災活動等に、第7回「特定非営利活動法人ジャパンハート」はミャンマー、カンボジア、ラオス、インドネシア、日本等での医療活動に、第8回「特定非営利活動法人 難民支援協会」は、日本に逃れてきた難民の来日直後から自立に至るまでの支援等に賞金が利用され、世界平和の創造に寄与しているものと考えております。

沖縄平和賞委員会では、県民が募金をとおして沖縄平和賞に参加していただき、県民参加型の顕彰制度として継続的に実施することを目的に、平成15年より募金を開始し、これまでに多くの皆様からのご協力をいただいております。

趣旨にご賛同いただき、格段のご協力・ご支援をお願い申し上げます。

平成30年9月

沖縄平和賞委員会会長 職務代理者
副会長 沖縄県副知事 謝花喜一郎

沖縄平和賞支援募金について

1 募金の方法

(1) 納付は、同封の「払込取扱票」により、郵便局から「沖縄平和賞委員会」あてにお願いいたします。(同「払込取扱票」を利用すれば振込手数料はかかりません。)

加入者名 (受取人) 沖縄平和賞委員会
口座番号 01750-1-61696

(2) 下記の金融機関でもお受けできます。ただしその際は、誠に恐縮ですが、振込手数料については、募金者でご負担くださいますようお願いいたします。

| | | |
|--------------|----------|-----------|
| 名義人 (受取人) | 沖縄平和賞委員会 | |
| 琉球銀行県庁出張所 | 普通預金 | 155-866 |
| 沖縄銀行県庁出張所 | 普通預金 | 1255242 |
| 沖縄海邦銀行県庁内出張所 | 普通預金 | 0-063-488 |

※沖縄県農業協同組合については口座名義人変更予定となっておりますので、ご利用を希望される場合、ご連絡頂きますようお願い申し上げます。

(3) 上記の方法により、平成31年3月31日までにお振り込みいただければ有り難く存じます。(※なお、期日を過ぎてもお振り込みは可能ですが、次年度以降の繰越とさせていただきます)

※寄付金に関する税制上の取り扱いについて

原則として、募金する寄付金については、損金算入等の税制上の特例措置はありませんのであらかじめご承知下さい。(なお、一般限度額の範囲内での損金算入は可能です。詳しくはお近くの税務署等でご確認下さい。)

2 募金の目標額

年間500万円以上

3 募金の使途

「沖縄平和賞基金」に積み立てるとともに、沖縄平和賞の賞金の財源に充当します。

4 沖縄平和賞事業への意見、要望

皆様から沖縄平和賞事業についてのご意見、ご要望等を受付けております。別添様式により、下記の事務局までご送付 (FAX等) 頂きますようお願い致します。

その他ご不明な点等がございましたらご連絡ください。

〒900-8570 那覇市泉崎1-2-2
沖縄県 子ども生活福祉部 平和援護・男女参画課内
沖縄平和賞委員会事務局 担当 新垣
TEL 098-866-2500、FAX 098-866-2589
E-mail:aa001309@pref.okinawa.lg.jp

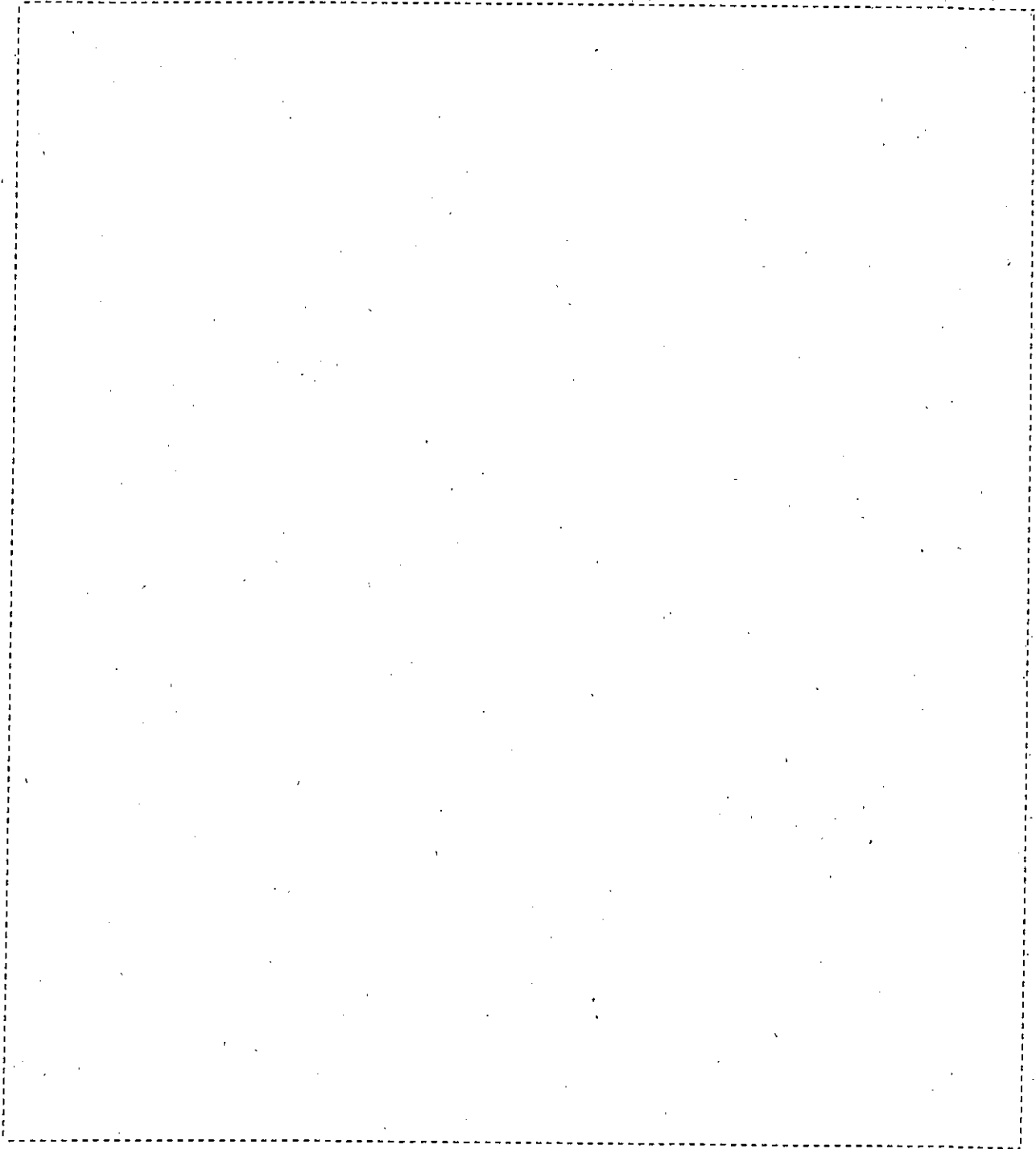
沖縄平和賞委員会事務局あて (FAX 098-866-2589 Eメール aa001309@pref.okinawa.lg.jp)

沖縄平和賞へのご意見、ご要望について

氏名

連絡先

ご意見・ご要望の内容



歴代授賞者等の概要（その後の活動・賞金の活用）

○第1回沖縄平和賞（2002年）：平成14年

☆ 中村哲を支援するペシャワール会 ☆

中村哲医師のパキスタンとアフガニスタンでの医療活動を支援するために設立されたペシャワール会は、アフガニスタンでの診療所の運営や用水路の建設を行っています。

内戦・社会不安など厳しい環境の中、誰も行かないところに行く、他人のやりたがらないことをやるという信念を持ち、「理想・信条にとらわれず『支え合い』の精神で一致して会を運営する」ことを方針とする同会は、内発的多様性を基礎として平和と人間の安全保障に貢献しています。

同会は、沖縄平和賞の賞金を活用してアフガニスタンに「オキナワピースクリニック」と名付けられた診療所を開設しました。

○第2回沖縄平和賞（2004年）：平成16年

☆ 特定非営利活動法人アムダ ☆

アムダは、アジア・アフリカ・中南米において戦争、自然災害、貧困等により社会的・経済的に恵まれず社会から取り残されている人々への医療救援と生活状態改善のための支援活動を積極的に展開しています。国際的なネットワークに基づく「アムダ多国籍医師団」は、自然災害をはじめ、突然の不幸な出来事に見舞われた人々に対し迅速かつ的確な援助を行うことにより多くの被災者の不安を取り除き、尊い命を救い、復興に貢献しています。

同会は、賞金をスマトラ島沖地震等の緊急支援活動に活用し、その後も「必要とされれば、どこへでも行く」の信条の基、支援を必要とする国々で活動を行い、県内からも医師や看護師が活動に参加しています。

○第3回沖縄平和賞（2006年）：平成18年

☆ 沖縄・ラオス国口唇口蓋裂患者支援センター ☆

沖縄・ラオス国口唇口蓋裂患者支援センターは、ラオス国を中心とした東南アジア諸国での医療活動や治療技術の移転など多くの事業を展開しています。これまでラオス国で多数の無料手術を行い、現地のスタッフに対する技術移転や歯科医療用器具の贈呈を行っています。これらの活動は、口唇口蓋裂により生活に支障をきたし、社会的に差別を受けている人々に希望を与えるとともに、社会的参加を促進しています。

同センターは賞金を活用し、ラオス国での手術施設建設や、同国から沖縄への留学生支援に活用しています。

○第4回沖縄平和賞（2008年）：平成20年

☆ 特定非営利活動法人 難民を助ける会 ☆

難民を助ける会は、政治・思想・宗教に中立な立場の市民団体として、故相馬雪香氏の呼びかけにより設立され、1997年には、地雷禁止国際キャンペーン（ICBL）のメンバーとしてノーベル平和賞授賞式にも招聘されました。難民や避難民への支援のみならず、障害者への支援や、対人地雷廃絶・被害者支援に重点をおく多彩な支援活動を展開しており、これまでに世界50カ国以上での活動実績があります。

同会は、賞金を活用して、アジア地域での障害者自立支援事業や世界的な地雷被害者のネットワーク構築の事業を実施しています。

第5回沖縄平和賞（2010年）：平成22年

☆ 特定非営利活動法人 シェア＝国際保健協力市民の会 ☆

シェア＝国際保健協力市民の会は、1983年に、市民による国際医療協力を旨とする医療関係者、学生等により設立されました。設立当初から一貫して、保健医療分野に絞った活動を行い、アジア、アフリカを中心に、地域保健活動、エイズ予防啓発、HIV陽性支援活動など、プライマリ・ヘルス・ケアのアプローチに基づいた活動を行っています。また本国内においても、医療にアクセス困難な外国人のための支援に取り組んでおり、国内外での動を通じて、すべての人が心身ともに健康で暮らせる社会の実現を目指しています。

同会は、賞金を東日本大震災復興支援活動等に活用しています。

第6回沖縄平和賞（2012年）：平成24年

☆ 特定非営利活動法人 シャプラニール＝市民による海外協力の会 ☆

シャプラニール＝市民による海外協力の会は、特定の宗教、政治、企業団体には属さず、一般の市民の思いから作られ、その会費や寄付で運営されている国際協力NGOです。バングラデシュ、ネパール、インド（西ベンガル州）の貧しい人々の問題を解決するために、総合的な農村開発をはじめ、ストリートチルドレンや働く子どもたち、女性、高齢者、障がい者、先住民族など、社会的・経済的に「取り残された人々」の支援や災害への緊急支援・復興支援などの活動に継続して取り組んでいます。

同会は、賞金をバングラデシュ及びネパールの防災活動等に活用しております。

第7回沖縄平和賞(2014年):平成26年

☆ 特定非営利活動法人ジャパンハート ☆

ジャパンハートは「医療の届かないところに、医療を届ける」を基本理念として設立された国際医療NGOです。

ミャンマー、カンボジア、ラオス、インドネシア、日本で活動。海外では、多くの日本人医療者やボランティアを派遣し、貧しく医療を受けられない人々に診療・手術を行う医療支援活動や、現地医療者の育成に取り組んでいます。日本では、東日本大震災復興支援をはじめ、医療者不足が深刻な離島や僻地の病院に医療者を派遣する医療人材支援や、小児がんの子どもたちを応援する「すまいるスマイルプロジェクト」などに取り組んでいます。さらに日本・ASEAN内で起こる大規模災害に対し、迅速に医療者を派遣する国際緊急支援活動も行っています。

同団体は、賞金を主にミャンマー、カンボジア、ラオスの治療を受けられない子どもたちをはじめ、多くの患者さんの医療活動費に活用しています。

第8回沖縄平和賞(2016年):平成28年

☆ 特定非営利活動法人難民支援協会 ☆

難民支援協会は、「なかなか難民として認定されることがないまま日本に滞在している難民の苦渋を傍観するに耐えず、同じ人間として支援したい」という想いのもとに、1999年に設立されました。

難民保護の専門集団として、日本に逃れてきた難民が来日直後の緊急時期から自立に至るまでの道のりを、一人ひとりに寄り添い、認定手続き、「医食住」の確保、自立に向けた支援などを行っています。

海外においては、アジア・太平洋地域での各国政府や難民保護に取り組む現地NGOとともに、国際的な連携・協力を目指しています。

同団体は、賞金を主に日本に逃れてきた難民の来日直後から自立に至るまでの支援等に活用する予定です。